

# 利根沼田家保だより2024



利根沼田農業事務所 家畜保健衛生課  
 (利根沼田家畜保健衛生所)  
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412  
 電話 0278-24-3888



## ●防疫対策の徹底をお願いします

令和 6 年上半期には日本を訪れる外国人観光客は過去最多となっており、日本への人や物の往来が活発になっています。中国、韓国やアジアの多くの国々では、令和 5 年度以降も口蹄疫やアフリカ豚熱等の家畜伝染病の発生が報告されています。さらに韓国では、まだ国内では発生が無いランピースキン病の発生が、8月にもありました。

また、海外から持ち込まれた肉製品から生きたアフリカ豚熱ウイルスが検出されています。

### 肉製品中でもウイルスは生きています

アフリカ豚熱ウイルス生存期間

- 骨付き肉：約150日
- 塩漬け乾燥ハム：140日間
- 冷凍肉：数年間



### 【ランピースキン病】

感染牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を示します。

写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所



口蹄疫やアフリカ豚熱などの家畜伝染病が日本に侵入するリスクは非常に高い状況です。畜産農家の皆様は改めて以下の防疫対策に努めて下さい。

- 口蹄疫やアフリカ豚熱等の発生地域への不要不急の海外渡航は自粛しましょう。
- 外国人従業員を受け入れている場合は、日本への持ち込みが禁止されている肉製品等が持ち込まれることのないよう、周知を徹底してください。
- 衛生管理区域内に関係者以外が立ち入らないように、看板等を設置しましょう。
- 衛生管理区域内に立ち入る場合は、専用の衣服・長靴等を着用し、消毒を徹底しましょう。

## ●導入牛（下牧牛）のヨーネ病検査の重要度が増しています

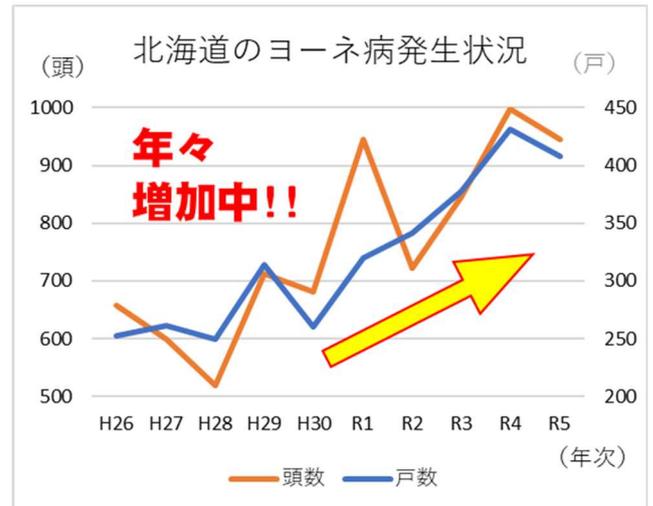


北海道においてヨーネ病の発生は年々増加しており、北海道から牛を導入する農場においても、ヨーネ病の侵入リスクが高まっています。

ヨーネ病は、数か月から数年間と長い潜伏期間の後に慢性の水様性下痢、泌乳量の低下、削瘦等により生産性を著しく低下させる疾病です。感染牛は発症前から糞便中に大量な菌を排出し、放置すると農場全体に本病がまん延し経済的損失が大きいことから早期発見が必要です。

県外から牛を導入、預託していた牛が下牧する際、さらに、県内市場において県外の上場牛を購入した場合は、ヨーネ病の検査を必ず受検して下さい。

検査については、導入（下牧）計画が立ちましたら、農場への着地日や頭数等をあらかじめ家畜保健衛生所へご連絡下さい。検査手数料は1頭あたり¥1,290です。



## ●7月 集乳車等による牛ウイルス性下痢（BVD）検査結果



BVD対策として、県央クーラーステーションでの集乳車や農場でのバルク乳による検査を定期的に行っています。今年度7月の検査では利根沼田管内からBVDウイルスは検出されず、継続的にウイルスを排出する持続感染(PI)牛は摘発されませんでした。今後も本病のまん延防止のため、半年に1回の間隔で検査を継続していく予定です。



## ●輸入乾燥牧草の飼料利用に係る注意



県内農場において、輸入乾燥牧草の単独給与により、飼養牛がエンドファイト中毒とみられる症状（起立不能・筋肉のけいれん等）を呈す事案が発生しました。

- ・輸入乾燥牧草を給与する場合には、複数の粗飼料を併せて給与するようにしましょう。
- ・異常があれば輸入乾燥牧草の給与を中止し、家畜保健衛生所までご連絡ください

## ● 新潟県の養豚場で発生した豚熱の概要



令和6年8月に新潟県新発田市の養豚場で豚熱の発生が確認されました（国内93例目）。

当該農場では、車両消毒がないことや、豚舎ごとの衣服交換・手指消毒がないこと、ネズミ・ネコの存在、農場柵周囲の雑草繁茂、農場周囲のイノシシ痕跡が指摘されており、環境中のウイルスが豚舎内に持ち込まれたものと考えられます。

**移行抗体やワクチンですべての豚を防御することは出来ません。引き続き、適切なワクチン接種とともにウイルスの持ち込み防止対策にご留意ください。**

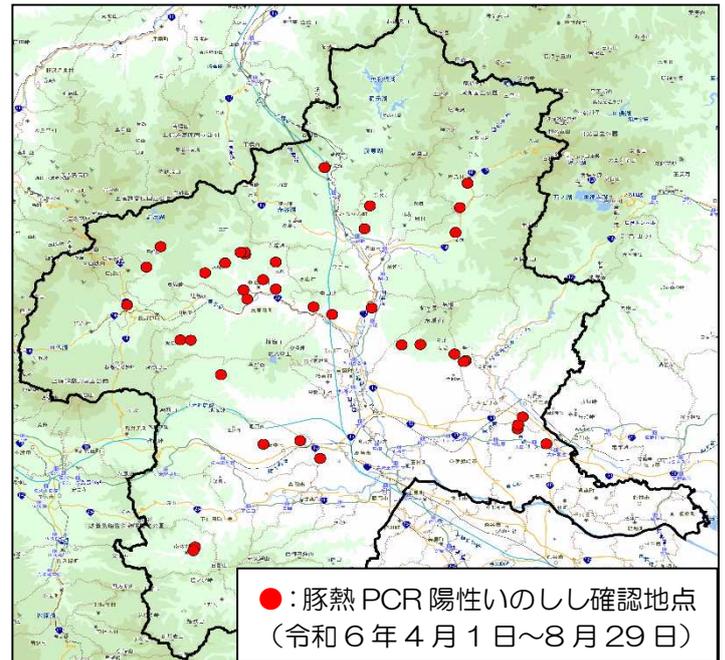
- ◇ 衛生管理区域や豚舎に出入りする際の手指消毒
- ◇ 衛生管理区域と豚舎内で使用する長靴の区分
- ◇ 農場に入る車両の消毒
- ◇ 豚の移動の際に消毒済みの通路やカゴを使用
- ◇ 野生動物の侵入防止（防護柵・防鳥ネットの設置、修繕、除草等）
- ◇ ねずみや昆虫の駆除（粘着シート等の利用）
- ◇ 野生動物を近づけないために農場内の整理整頓と定期的な消毒

## ● 野生いのししの豚熱検査状況と対策の徹底



令和6年度4月1日から8月29日までの野生いのししの豚熱検査頭数とPCR陽性頭数は下表のとおりです。県内全体の陽性率は9.8%ですが、利根沼田管内では陽性率が15.0%と、他の地域より高くなっています。また、令和5年度の利根沼田管内の陽性率12.5%より上昇しています。県内各地で豚熱陽性いのししが確認されており、どこに豚熱陽性いのししがいてもおかしくありません。

野生動物の侵入は病原体の持ち込みの最大のリスクです。防護柵周囲や農場内は防草シートや除草剤などで除草し、農場に野生動物が近づきにくくなるよう、対策をお願いします。



捕獲地域	検査頭数（頭）	PCR 陽性頭数
利根沼田	40 (沼田市 12、片品村 17、みなかみ町 11)	6 (沼田市 2、片品村 1、みなかみ町 3)
中部	97	7
西部	86	7
吾妻	102	15
東部	95	6

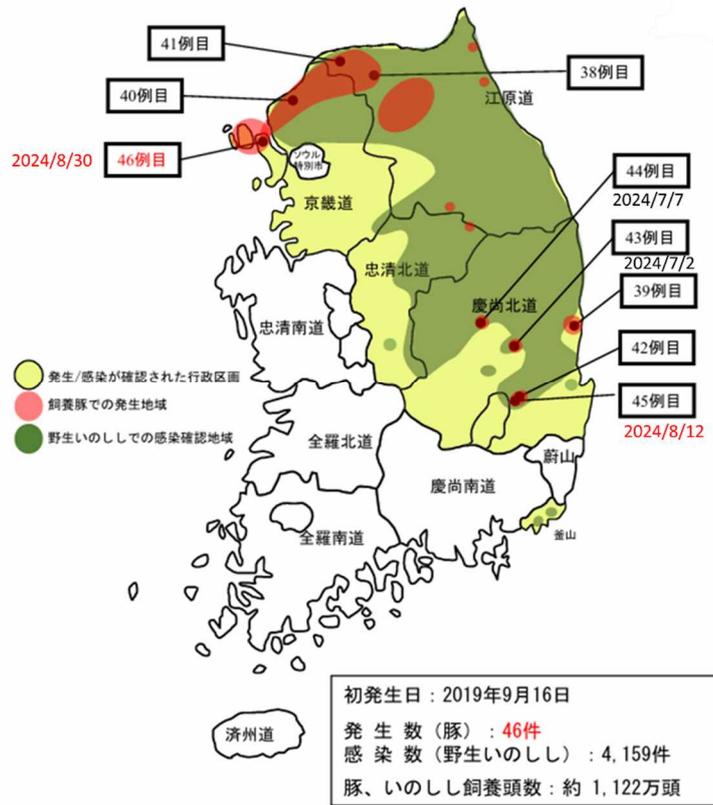
## ● アフリカ豚熱はすぐそこまで来ています

韓国では継続的にアフリカ豚熱が発生しています。8月にも飼養豚で2件の発生がありました。また、日本から50kmの釜山では、野生いのししのアフリカ豚熱感染が確認されています。大阪や博多などへの港や空港のすぐ近くです。

旅行客が回復してきた中、アフリカ豚熱の日本国内への侵入リスクは極めて高い状況です。アフリカ豚熱ウイルスは死体中で数か月生存可能、消毒薬が効きにくい、ワクチンが無い等の理由から、感染が確認された場合は周辺農場の飼養豚を予防的に殺処分する可能性があり、豚熱とは対応が異なります。

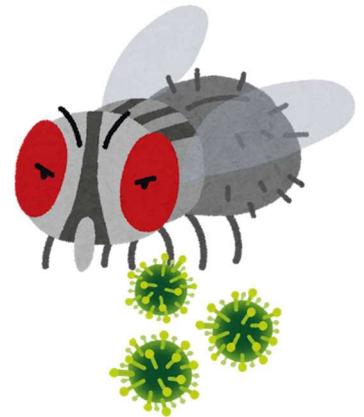
農場への侵入防止対策には「**飼養衛生管理基準の遵守徹底**」以外ありません。定期的に、農場の防疫体制を見直していただきますようお願いいたします。

### 韓国におけるアフリカ豚熱の発生状況



## ●肉食性のハエが病原体を畜舎内に運びます

クロバエ類は、腐肉食性で、動物の死体を食べる習性があり、農場、畜舎内へウイルスを運ぶ重要な感染経路の一つと考えられます。豚熱陽性イノシシ生息地点付近のクロバエから豚熱ウイルスの遺伝子が検出された報告もあり、豚熱ウイルスに汚染されたクロバエが地域内に飛来していると考えられます。また、鳥インフルエンザについても、クロバエの糞便による飼料汚染やクロバエを鶏が食べることにより伝播すると考えられています。



農場内に病原体が持ち込まれないよう、ハエ対策をお願いします。

### ○ハエ対策

- (1) 家畜排せつ物は、適切な水分調整により発酵を促進させる。
- (2) ハエは蛆の時期に対策をする。(脱皮阻害剤による初期防除)
- (3) 貯留槽には定期的に殺蛆剤を使用する。
- (4) 粘着シート・ハエ防除ネット等を利用する。
- (5) 1種類の殺虫剤を使用し続けると、薬剤耐性のハエが増加し効果が低くなるため、複数の殺虫剤を使い分ける。
- (6) ハエを誘因する死体は速やかに処理する。

## ●鳥インフルエンザ対策は9月中に万全にしてください。



高病原性鳥インフルエンザの発生は国内では4シーズン連続、県内では2シーズン連続となっています。特に昨シーズン発生した高山村の環境は、利根沼田地区と類似しています。この管内でもいつ発生しても不思議ではありませんので、9月中に対策を万全にしてください。

### 【過去の高病原性鳥インフルエンザ発生から学ぶ対策のポイント】

①死亡鶏の処理方法や堆肥舎の管理状況が野生動物の誘因となっている。



堆肥舎内の死亡カラス（陽性）

#### ポイント

ネコ、イタチなどの小動物、カラス等を誘引しないよう、死亡鶏、廃棄卵、糞を適切に処理しましょう。

②農場周辺に多数の野鳥が飛来。鶏舎の入気口周辺に多量の糞あり。



屋根の入気口付近の塵埃が鶏舎内へ

#### ポイント

屋根裏に野鳥や小動物が入らないよう、入気口に金網やフィルターを設置しましょう。また、入気口周囲に野鳥が近寄らないように工夫しましょう。

③鶏舎内に野生動物が侵入。集卵ベルトや除糞ベルトの鶏舎出入口に金網未設置、屋根や壁の金網に破損あり。



集卵コンベアの開口部



金網の破損

#### ポイント

野生動物の鶏舎内への侵入防止対策を実施しましょう。

金網の破損だけでなく、集卵ベルト、除糞ベルトの鶏舎出入口のすきまから、ネコやイタチが入っています。



# 【ウイルスの鶏舎内持ち込みを防止のため飼養衛生管理の再確認をお願いします】

## 人による持ち込み防止対策



- ✓ 衛生管理区域に入る車両、人、物の消毒徹底
- ✓ 鶏舎ごとに専用衣服・長靴の着用
- ✓ 鶏舎専用の長靴で鶏舎の外に出ない
- ✓ 鶏舎外で履いた長靴で鶏舎内に入らない
- ✓ 消毒、更衣前後における交差のない動線を確保
- ✓ 外部事業者にも対策を徹底



## 野生動物による持ち込み防止

- ✓ 壁や防鳥ネットの破損部分の修繕
- ✓ 堆肥舎や鶏糞搬出口への覆いの設置
- ✓ ネズミや害虫の駆除
- ✓ 畜舎周囲、農場出入口の石灰散布



集卵バーコンベアが鶏舎外に出る部分は、集卵作業時以外は閉鎖する



発生鶏舎排水口の閉鎖不全。2 cm程度の隙間あり



鶏舎の金網の破損部位。小動物が出入りした痕跡あり

## 農場敷地内・周辺環境整備

- ✓ 水場の水抜き
- ✓ 野生動物が隠れる場所の草刈り



農場周辺の水場の野鳥

異常家きんを確認した場合は、家畜保健衛生所まで速やかに連絡をお願いします。

#### 疫学調査時に確認された農場における症状



鶏冠チアノーゼを呈した死亡鶏



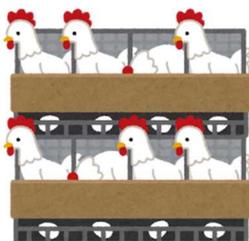
顔面の浮腫



沈鬱



同一ケージ内でのまとまった死亡・衰弱



#### ★飼養衛生管理に関わる立入調査の協力のお願い

鳥インフルエンザシーズンの前に飼養衛生管理基準の遵守状況を確認するため、9月中に立ち入り検査を実施する予定です。家畜保健所から連絡をいたしますのでご協力をお願いいたします。

#### ●畜舎からの銅線窃盗が発生しています

県内で、養鶏場を狙った銅線窃盗が連続して発生しています。また、管内では車の盗難も起こっています。養鶏場だけでなく、他の畜腫の畜舎でも被害に遭う可能性がありますので、門扉の施錠、防犯カメラ・センサーライトの設置等の対策をお願いします。



#### ●大雨による堆肥や汚水の流出に注意しましょう

この時期は、台風や雷雨等による集中豪雨が多発します。大量の雨水が堆肥処理施設や畜舎周辺に流れ込んだ場合には、周辺の道路や田畑などへ家畜ふんや汚水が流出する可能性があります。

流出を未然に防ぐために、

○最新の気象情報を常にチェックする

○施設の点検、補修を行う

○畜舎や堆肥舎周辺の清掃を行い、流出する可能性があるものを減らす

○大雨のリスクを考慮した防水・排水対策を行う

などの対策が必要です。



日頃から家畜排せつ物の適正管理を意識し、流出防止のための再確認をお願いします。

## ●定期報告等の手続きが電子化されます

定期報告等が電子化されるに伴い、gBiz ID（ジービスアイディー）を取得し、eMAFF（イーマフ）に接続して農場登録をお願いします。家きんについては令和6年10月の一斉点検から開始されます。詳細は別添リーフレットを参照ください。



## ●第28回群馬県畜産共進会（山羊の部）の成績について



8月23日、渋川家畜市場で第28回群馬県畜産共進会（山羊の部）が開催されました。利根沼田地域を代表して1戸2頭を出品していただきました。佐藤清司氏出品の「ちょうじゃくぼ6-3」が畜産技術協会会長賞に選ばれました。



佐藤 清司氏 出品  
「ちょうじゃくぼ6-3」

部別	名号	出品者
1	ちょうじゃくぼ6-3	佐藤 清司 氏（昭和村）
	ちょうじゃくぼ6-4	

## ●別添文書をご確認ください

- ・定期報告等の手続きが電子化されます
- ・上州地鶏生産者募集中！（鶏飼養者、関係者のみ）

◆既に廃業された方に本日よりが届きましたら、

お手数ですが当所までご一報下さい◆

利根沼田家畜保健衛生所  
〒378-0031 沼田市薄根町4412  
TEL 0278-24-3888 FAX 0278-24-3889  
（夜間・休日の電話は転送されます。）